

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年10月16日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872501002		
法人名	社会福祉法人 豊潤会		
事業所名	グループホーム ひより	ユニット名	
所在地	〒319-2512 茨城県常陸大宮市下桧沢3526		
自己評価作成日	平成25年5月20日	評価結果 市町村受理日	平成25年10月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872501002-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0872501002-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年6月25日	評価確定日	平成25年10月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・ 広い畑があり、季節の野菜を栽培し、食事に取り入れている。
- ・ 苗の植え付けや収穫など、利用者が今迄の経験を生かして参加できる。
- ・ 運営推進会議も定期的開催出来ており、地域の方との連携が密になってきている。
- ・ 車の騒音もなく、鳥の鳴き声が聞こえる静かな環境である。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

廃園になった保育園を改築した事業所で、山々に囲まれた自然豊かな場所に立地しており、四季折々の風情を感じたり、鳥の鳴き声を聴いたりしながら、心穏やかに暮らせる環境となっている。

利用者と職員が地域の文化祭に作品を出展して見物に出かけたり、職員が地域の清掃活動や地元老人会の花壇清掃に参加したりして、地域に根ざした交流に取り組んでいる。

元保育園の園庭を畑にして利用者と職員で季節の野菜を栽培するとともに収穫し、食材に活用している。

年間の外出計画を立て、初詣を始め地域の文化祭や植物園、外食など様々な外出を支援し、利用者が毎日生き生きと生活ができるよう取り組んでいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの事業計画の確認の時に、理念も一緒に職員間で確認している。また、事業所の見やすい場所に掲示している。	開設時に全職員で話し合い、「利用者の自分らしさと可能性、いつでも発揮できるよう家族と地域と連携し、随時不安を取り除きます」との理念を作成している。 職員は新人研修や全体会議で理念について話し合っているほか、玄関や共用スペースなどに掲示して理念を確認し、共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に作品を出品し健康促進事業では地域の人たちと一緒に食事をしている。施設周辺の草刈りにボランティアに来てくれる人や花壇に花を植えてくれる人もいる。	地域の文化祭に利用者が制作したちぎり絵や習字、写真などを出展している。 事業所のボランティア活動として、職員は長沢峠付近の清掃活動や地元老人会の花壇清掃に参加しており、地域の一員としての役割を担っている。 フラダンスや踊り、歌、カラオケなどの地域のボランティアを受け入れているほか、ボランティアが事業所周辺の草刈りをしたり、花壇に花を植えたりしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会時など認知症高齢者を抱える家族の話をゆっくり聞いてあげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1. 運営推進会議では、施設の情報を伝えるとともに、施設の食事を食べてもらって意見をいただいている。運営推進委員の方々が敬老会や避難訓練などの施設の行事にも参加してくれている。	運営推進会議は市職員や地域包括支援センター職員、区長、民生委員、老人会会長などで2ヶ月に1回開催している。 会議には市職員もしくは地域包括支援センター職員が参加することになっているが、両者とも欠席の場合がある。 会議では行事報告や事業所の状況報告をしているほか、委員と活発な意見交換を行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 運営推進会議議事録が作成されていない場合がある。	市職員ならびに地域包括支援センター職員においては、福祉サービス向上のため、どちらかが必ず全ての運営推進会議に参加することが望まれる。 運営推進会議議事録は必ず作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空き情報を伝えたり、介護認定の更新手続きなど行っている。市担当者からは、市の条例が変わったことなどの情報が伝えられている。	職員は要介護更新認定の手続きで市担当者を訪問した際に事業所の空き情報を伝えたり、事業所の相談に乗ってもらったりして協力関係を築いている。 生活保護受給の利用者については、市担当者が年1回来訪している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉や玄関、居室には施錠をせず利用者は職員に見守られ自由に暮らしている	職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解しており、玄関や居室は施錠せず、利用者の自由な生活を支援している。 身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、職員は内部研修を受講して身体拘束をしていないかどうかを確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 現在身体拘束はしていないが、やむを得ず身体拘束をする場合に備え、身体拘束に関する説明書や経過観察記録を用意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1. 研修会、勉強会、会議などの計画を立てて実施している。また、職員用にご意見箱を設置して意見を聞くようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護資料を回覧している		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際に詳しく説明し、理解頂けるよう努めている。疑問点なども、随時聞いて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、運営推進会議に利用者や家族代表が出席し、家族等の立場から率直な意見や要望を汲み上げるように努め、出た意見を運営に反映できるように努力している。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、管理者や職員は家族等の来訪時に意見や要望を聴き、出た意見等を運営に反映させるよう努めている。 前回の外部評価で無記名のアンケート実施が提案されたため、管理者は玄関にアンケート用紙と箱を設置したが、投函はなく、利用者や家族等の意見や要望を汲みあげるまでには至らなかった。	直接意見や要望を出し難い利用者や家族等に配慮し、年1回程度無記名のアンケートを家族等に送付して意見等を汲みあげるとともに、結果を利用者や家族等、運営推進会議の委員に報告することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善カードを用意して、思いついたアイデアをメモに書いて出してもらい、ミーティングで話し合い運営に反映させている	職員が業務中に気付いたことを記入する「改善カード」を基に、月1回の全体ミーティングで話し合っている。 「厨房が乱雑である」や「パソコンが欲しい」、「乾燥機や洗濯機を買い替えて欲しい」、「公用車のタイヤを交換して欲しい」など、職員から出た意見や要望を話し合い、改善している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は不定期に当施設に来所し、内外の様子を見るとともに、スタッフの意見に耳を傾けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会や研修会の参加の呼びかけがあり、職員は自由に参加することができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に入会し、積極的に参加し情報交換意見交換するなどしている。又、他施設を見学する機会を用意している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所したばかりには、職員ができるだけそばに付き添い今の時間や場所、周りにいる人との関係などを繰り返し説明し、自分がこれからどうすればよいかのわかるようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	1. 入所申し込みの時には、施設内外の見学をしてもらい、1日の過ごし方、病院受信の仕方、利用料金、支払方法などの説明をし、気になることに答えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を行い、家族構成、利用者の身体状況、利用者・家族の意向などを確認し、必要があれば他の相談窓口の紹介もしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜作りや料理、書道など得意な事柄の助言や知恵を職員が頂いている。時には、相談事を聞いてもらい、人生の先輩としてのアドバイスを頂くことで双方向性の関係になっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や夏祭りなどの施設の行事に家族が参加できる機会を用意して、利用者と一緒に食事をしたり、レクリエーションに参加してもらうことで支えていく関係を用意している。また、利用料は、できるだけ振り込みではなく届けてもらい、面会の機会につなげている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、共有スペースや居室でお茶やコーヒーが飲めるようにしている。	家族等や知人の来訪時には共用スペースや居室でゆっくり話ができるよう、お茶やコーヒーを出して接待している。 利用者の散髪は馴染みの理・美容師に来訪してもらっており、職員は来訪日の連絡調整をしている。 病院の受診時に利用者の自宅前を公用車で通り、利用者のかけがえのない場所とのつながりが継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の会、昼の会、夕の会を実施し、今日の日付、今の時間、場所の確認、さらに、世間のニュースを伝え、そのことにまつわる話題を利用者同士で話ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入所したようなときには、退所後でも相談にのったり情報提供をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は基本情報から利用者の生活歴を把握するとともに、日々の係わり中で利用者の行動や表情を観察し思いや意向の把握に努め、新聞や牛乳の宅配や契約をするなど希望に沿うように支援している。意思疎通が困難な利用者には、家族等の来訪時や電話で話を聞くことで把握に努めている。	職員は基本情報から利用者の生活歴を把握するとともに、利用者との会話の中から思いや希望を聴くよう努めている。毎日牛乳を飲みたいとの利用者の希望に応じて、職員は毎回の食材の買い出し時に買ってくるなど、意向にそった支援をしている。職員は利用者の得意な事を把握しており、草取りが上手な利用者には草取りをお願いしたり、元教師だった利用者には食事開始の挨拶をお願いするなど、利用者の意向にそった支援をしている。意志疎通が困難な利用者の場合は、家族等から話を聴いたり、利用者のしぐさや行動から推し量ったりして、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、サマリーや個人情報表、家族の情報などから把握し、職員全員で共有していくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族からの情報やサマリーなどの情報と合わせ、施設での暮らしの中で個々の言動を観察し得られた情報を職員全員で共有し、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族等の意見を聞き、全体会議で作成し家族の確認を得るとともに、毎月モニタリングを行い、6か月毎に見直すほか、新たな課題や心身の状態に変化が生じた場合は、職員間で話し合い介護計画の見直しに生かしている。	計画作成担当者や職員は利用者から話を聴いたり、家族等の面会時や家族等への電話連絡時に話を聴いたりしながら、日々の支援記録を基にカンファレンスで話し合い、利用者や家族等の意見や要望を取り入れた介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、利用者の状態に応じて6ヶ月毎、又は1年毎に介護計画を見直している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、計画作成担当者や職員で話し合い、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアサービス表の他、介護日誌を使い個々の生活状況を時間を追って記録し、ケアの内容や変化なども、朝夕の申し送りや申し送りノート、ミーティング等で報告し話し合う事で、職員全員が情報を共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わる受診代行や、医療連携体制による看護師への24時間の連絡が可能である。又、家族等が来所の際には、希望により食事の提供も行っている。家族の宿泊も受け入れている。面会時間も、決められた時間以外も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方々による地域参加への援助、ボランティアによる歌の会やお祭りへの参加、又、地域の消防署の協力による避難訓練なども体験して頂き、安全に楽しく暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の意向を踏まえ利用者からのかかりつけ医に受診できるように職員が付き添い支援している。協力医療機関の医師が必要に応じて往診するほか、訪問看護師と24時間連絡が可能であり、緊急時を含め適切な医療が受けられるよう支援している。	契約時に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認している。 かかりつけ医への受診は、基本的には家族等が付き添うこととしているが、家族等が付き添えない場合には職員が同行するとともに、受診結果を電話で家族等に報告している。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援している。 提携している診療所の看護師と24時間連絡可能な体制を築いており、緊急時でも適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地元医療機関との連携により、24時間訪問看護との連絡がとれる体制になっている。個々の利用者の状態により連絡を取り、適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、面会に行き経過状況を病院関係者からうかがっている。入院中に必要なものも届けている。退院したばかりには受信の支援も行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて看取りに関する指針や同意書を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 ターミナルケアの経験があり、事業所として出来る事出来ない事について十分に家族等に説明しているほか、協力病院と相談し支援体制を構築している。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を作成するとともに、契約時に利用者や家族等に説明して書面で同意を得ている。 事業所では現在までに数人の看取りを経験している。 終末期にはターミナルケアマニュアルを基に全職員で勉強会を実施するとともに、家族等の協力を得ながら協力医療機関の医師や看護師、職員でチームを結成して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルを作成したので、施設内の研修会で訓練し実践力をつけていきたい		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、区長さんと消防署の協力で避難訓練を行ってきた。地震については、備蓄品の種類と量の点検を行っている。断水時に備えて井戸水の水質検査も行っている。	年1回消防署立会いのもと避難訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練や近隣住民が参加する避難訓練を実施するまでには至っていない。 災害時に備えて米や缶詰、飲料水などを備蓄するとともに、備蓄品の一覧表を作成して管理しているほか、断水時に備えて敷地内にある井戸水の水質検査を行っている。 避難訓練後に検討会を行うまでには至っていない。	避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう運営推進会議などで働きかけることを期待する。 避難訓練は年2回以上実施するとともに、夜間を想定した避難訓練を実施することが望まれる。 避難訓練後は検討会を開催して課題について話し合い、次回の訓練に活かすとともに、記録に残すことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助には小声で話しかけ、トイレのドアを閉めて外で待っていたり、入浴介助時は一人ずつ対応し、着脱前後はタオルをかけるなど利用者のプライバシーを損ねないように配慮している。	職員は利用者の羞恥心や自尊心に配慮し、トイレ誘導の際には小声で話しかけたり、排泄時にはトイレのドアを閉めて外で待ったりしているほか、入浴介助は一人ずつ対応し、着脱の際にはタオルをかけるなど、プライバシーに配慮した対応をしている。 個人情報に関する書類は事務所の書棚に保管し、取り扱いには十分に注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服を着るときには、「どちらがいいですか？」と聞いて行っている。お茶とほうじ茶を用意しておく、自由に注いで飲めるようになっている。庭にの散歩は自由にできるようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の会、昼の会、夕の会、食事、入浴、レクリエーション以外は、自由に過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望のある時など、衣類などの購入に外出したりしている。又、散髪も希望のある時など、顔なじみの理容店に来所してもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜を作っているので、種まきや収穫、まめの筋とり、じゃがいもの皮むき、みそ汁をよそる、食器を拭く、「いただきます」の声掛けなどをしてもらっている	利用者は職員と一緒に自家菜園で栽培した野菜を収穫しているほか、豆のすじとりやじゃがいもの皮むきをしたり、食器を拭いたりするなど、食事の準備や後片付けをしている。 職員は利用者と一緒に食卓を囲みながら同じ食事を摂っている。 利用者の状態に応じて粥や刻み食を提供しているほか、月1回程度外食を取り入れ、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成し食事を提供している。月一回の体重測定を行っている		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けを忘れずに行い、習慣になるように努めている。義歯を使用している利用者には、歯科医による義歯の洗浄の仕方など指導を受け介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排尿サイクルを把握するとともに、時間でのトイレ誘導や声掛けを行い、トイレで排泄ができるよう支援している。夜間もトイレで排泄できるよう誘導したり、居室にポータブルトイレを置き支援している。排泄の自立に向け利用者の状態に合ったパット使用を検討し支援している。	職員は排泄チェック表を作成して利用者の排泄パターンを把握し、個人の排泄リズムに合わせたトイレ誘導や見守りにより、自立した排泄ができるよう支援している。 利用者の状態に応じて夜間もトイレ誘導をしたり、夜間だけ居室にポータブルトイレを配置したりして、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の回数や状態をケアサービス表に記入し、必要に応じて、飲食物の工夫や運動する等気を配ったり、医師の診察を受ける等、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には午前中の中の入浴を支援しているが、利用者の希望に沿って午後の中の入浴も支援している。風呂は毎日用意している。利用者の希望で平均週2回から3回の中の入浴を支援している。	週2回から3回午前中の中の入浴を基本としているが、利用者の希望にそって午後からの入浴を支援したり、利用者の状態に応じてシャワー浴などの支援をしている。浴室に手すりを設置するとともに、シャワーチェアを用意して安全に入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に足浴をしたり、湯たんぽを入れたりなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名入りの袋に、朝、昼、夜それぞれ分けて薬を入れている。服薬前の本人確認の徹底、服薬の有無を記入する。様子に変化があった場合、ケアサービス表に記入し管理者に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割を紙に書いて張り出しており、実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物に行くときに2名くらい一緒に出掛けようとしている。天気の良い日には散歩に出かけている。	職員は天気の良い日は利用者が事業所周辺を散歩ができるよう支援しているほか、食材の買い出しには2名程の利用者と一緒に出かけ、なるべく外出ができるよう支援をしている。 年間の外出計画を作成し、初詣を始め植物園や地域の文化祭、海浜公園など、季節に合わせて様々な場所に出かけられるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お金を持っていたい」という利用者には、家族と相談し数千円程度所持してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり手紙を出したいという利用者には、職員が付き添ってできるようにしてきたが、現在は、電話をかけたいという利用者も手紙を出したいという利用者はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は明るく広く換気や遮光に配慮されている。食堂からは、花壇や畑で栽培しているトマトやなす、じゃがいも、ねぎ等が見える。東屋の囲炉裏を囲み、お茶を飲んだり食事をしたり家庭的で心安まる環境となるよう工夫している。	居間兼食堂は広く、大きな窓からは自家菜園を見ることができ、利用者と職員と一緒に栽培しているトマトやじゃがいも、茄子、花などの成長を眺めながらゆったり寛げる空間となっている。 庭に東屋を設置し、天気の良い日は庭でお茶を飲んだり、食事をしたりできるよう支援をしている。 トイレや浴室は清潔に保たれており、利用者の安全に配慮して低めの手すりが設置されている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎルームやテラス食堂など、好きな場所を自由に使用して、テレビを見たり、景色を眺めたり、会話を楽しんだりしながら過ごしている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	管理者は契約時に利用者や家族等に使い慣れた物品を持ち込んでもらうよう説明している。居室はフロアで、タンスや時計、衣類、テレビ、ポータブルトイレ、写真など持ち込み、以前と変わりなく暮らせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体状況に合わせて手摺を増設している。草取りや畑仕事を好む利用者の為には、道具の置き場所を伝え、自由に使用して頂いている。洗濯物など干したり、取り込んだりたたんだり出来る利用者には、職員が見守りながらできるよう支援している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひより

作成日 平成25年10月8日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	○災害対策 ●夜間を想定した避難訓練や近隣住民が参加する避難訓練を実施するまでには至っていない。 ●避難訓練後に検討会を行うまでに至っていない。	●避難訓練は年2回以上実施するとともに、夜間を想定した避難訓練を実施する。 ●避難訓練後、検討会を開催して課題について話し合い、次回の訓練に活かし記録を残す。	●運営推進会議前、消防署立ち合いのもとで夜間想定避難訓練を実施する(地元住民：区長/老人会々長協力)。また、消防署による水消火器での実演を行う。 ●避難訓練後に行う運営推進会議時、検討会を行う。	●1回目：H25・10・12実施予定(消防署立ち合い) ●2回目：H26・3M実施予定
2	3	○運営推進会議を活かした取り組み ●会議には市職員もしくは地域包括支援センター職員が参加することになっているが、両方とも欠席の場合がある。 ●運営推進会議議事録が作成されていない場合がある。	●市職員ならびに地域包括支援センター職員において、福祉サービス向上のため、どちらかが必ず全ての運営推進会議に参加してもらう。 ●運営推進会議を開催したときは必ず議事録を作成する。	●地域包括支援センター職員に会議に参加して貰う。 ●必ず、議事録を作成する。	●H25. 6月より地域包括支援センター職員が参加。 ●H25. 4月より議事録作成。
3	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 ●前回の外部評価で無記名のアンケート実施が提案されたため、玄関にアンケート用紙と箱を設置したが、投函はなく、利用者や家族等の意見や要望を汲みあげるまでに至っていない。	●直接意見や要望を出し難い利用者や家族等に配慮し、年1回程度無記名のアンケートを家族等に送付して意見等を汲みあげ、結果を利用者や家族等、運営推進会議の委員に報告する。	●年1回、家族向けに無記名のアンケートを実施し、率直な意見を出して頂き、内容を運営に反映できるようにする。また、運営推進会議時、委員に報告する。	●アンケートは、H26・3月末(25年度末)に実施

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。